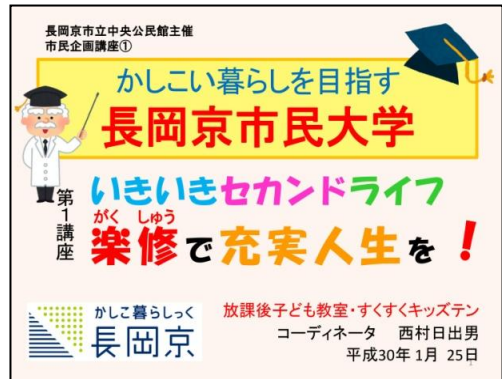


# 長岡京市民大学 第1回講座

2018.1.25.

西村日出男

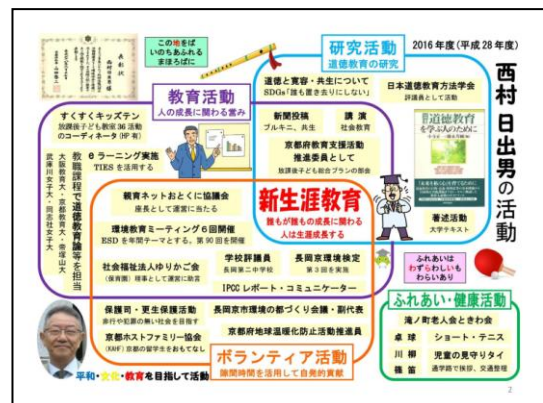
●【開始前作業+交流】受付でお配りしましたクロスワード・パズルを近くの方と相談しながら解いてみて下さい。スマホなどを使われても、結構です。答えは始まりましたら、お配りいたします。出来ましたら、近くの方とさらに自己紹介や意見交換をして下さい。全部、埋めるのはなかなか難しいかもしれません。



●【開会挨拶：中央公民館職員+市長】

●【西村の自己紹介】今日は「かしこ暮らしを目指す長岡京市民大学」にご参加いただきまして、誠に有難うございます。私は第1講座を担当させていただきます西村日出男、70歳です。少し自己紹介をさせていただきます。長岡京市に住んで45年。私はこの長岡京市が大好きです。そして恐らくこの地が竟の住み家になるだろうと考えています。だからこの長岡京市が素晴らしい所であって欲しいし、素晴らしい所にしたいと考えています。

●これは昨年度の私の活動図です。モットーの一つは「この地をば いのちあふれるまほろばに」です。「この地」とは地球のことであり、地域のことです。「まほろば」とは「素晴らしい所」という意味です。「古事記」の中で日本武尊が「倭（やまと）は国のまほろば たたなづく 青垣 山隠（やまこも）れる 倭しうるはし」と言っていますが、いにしえの都が置かれたこの



長岡京も緑豊かな西山を含む四神相応の土地です。我々は「ながおかは国のま

ほろば たたなづく青垣山こもれる」と、この長岡京市を「まほろば」にしようではありませんか。

●もう一つのモットーは「ふれあいは 煩わしいも 笑いあり」です。これについては後ほどお話しさせていただきます。

●本業の大学では 30 年あまり道德教育を担当していますが、地域ではいろんなボランティア活動をしてきました。現在は「長岡京市環境の都づくり会議」のメンバーとして、隔月に「環境教育ミーティング」を開催してきました。15 年間に過ぎ、先週には第 96 回を開催しました。実はこの「環境教育ミーティング」はこの中央公民館と共催しています。2017 年度のテーマは「誰も置き去りにしない」です。これは SDGs を意識しています。2018 年度のテーマは「持続可能な環境」です。

●また、10 年前から長岡第十小学校の「放課後子ども教室」「すくすくキッズテン」のコーディネータをしています。これにつきましても後でもう少し詳しくお話しさせていただきますが、スマホや PC で「すくすくキッズテン」と検索して頂きましたら、多くの写真や感想などを掲載した HP が出てきます。

●そしてこのたび、長年構想してきました「長岡京市民大学」を試行的にですが、始めることになりました。多くの方にご参加いただきまして、大変に感謝しております。詳しくは、もう少し後でお話しさせていただきます。

●それでは、先ほどみなさんで「脳トレ」としてクロスワードパズルに取り組んで頂きましたが、解答を含んだレジュメをお配りいたしますので、まだできてない方もおられると思いますが、5 分間ほど、答えを確認しながら、近くの方と趣味やスポーツなど話し合っ

解答		クロスワード・パズル		作																																																																																				
				西村日出男																																																																																				
問題		【タテのカギ】	【ヨコのカギ】																																																																																					
クロスワードの中の A B C D E を並べ替えると、或る団体名になります。		①「真鶴」(読み)	①この町は2度にわたって震度7の地震に見舞われました。																																																																																					
答: アイキャン		②暮らしの場にあつて、活用できるモノやコトやヒトなど。例えば、制度、施設、機関、人材など	④「陸草」(読み)。牛馬のわきの骨。																																																																																					
<table border="1"> <tr><td>1</td><td>ま</td><td>2</td><td>し</td><td>3</td><td>き</td><td>4</td><td>そ</td><td>5</td><td>ふ</td><td>6</td><td>あ</td></tr> <tr><td>7</td><td>ひ</td><td>8</td><td>や</td><td>9</td><td>く</td><td>10</td><td>た</td><td>11</td><td>ん</td><td>12</td><td>し</td></tr> <tr><td>13</td><td>わ</td><td>14</td><td>か</td><td>15</td><td>の</td><td>16</td><td>た</td><td>17</td><td>ま</td><td>18</td><td>う</td></tr> <tr><td>19</td><td>い</td><td>20</td><td>あ</td><td>21</td><td>く</td><td>22</td><td>わ</td><td>23</td><td>し</td><td>24</td><td>く</td></tr> <tr><td>25</td><td>し</td><td>26</td><td>ま</td><td>27</td><td>ち</td><td>28</td><td>し</td><td>29</td><td>よ</td><td>30</td><td>く</td></tr> <tr><td>31</td><td>じ</td><td>32</td><td>れ</td><td>33</td><td>ん</td><td>34</td><td>か</td><td>35</td><td>く</td><td>36</td><td>く</td></tr> <tr><td>37</td><td>い</td><td>38</td><td>ん</td><td>39</td><td>す</td><td>40</td><td>た</td><td>41</td><td>ば</td><td>42</td><td>え</td></tr> </table>		1	ま	2	し	3	き	4	そ	5	ふ	6	あ	7	ひ	8	や	9	く	10	た	11	ん	12	し	13	わ	14	か	15	の	16	た	17	ま	18	う	19	い	20	あ	21	く	22	わ	23	し	24	く	25	し	26	ま	27	ち	28	し	29	よ	30	く	31	じ	32	れ	33	ん	34	か	35	く	36	く	37	い	38	ん	39	す	40	た	41	ば	42	え	③詩文の最初。絶句の第一句。	⑤漢詩に対して、奈良時代までできた日本固有の詩歌の総称。	
1	ま	2	し	3	き	4	そ	5	ふ	6	あ																																																																													
7	ひ	8	や	9	く	10	た	11	ん	12	し																																																																													
13	わ	14	か	15	の	16	た	17	ま	18	う																																																																													
19	い	20	あ	21	く	22	わ	23	し	24	く																																																																													
25	し	26	ま	27	ち	28	し	29	よ	30	く																																																																													
31	じ	32	れ	33	ん	34	か	35	く	36	く																																																																													
37	い	38	ん	39	す	40	た	41	ば	42	え																																																																													
		④「村度」(読み)	⑥「言う」の尊敬語。おっしゃる。																																																																																					
		⑤歌、謡、語りなどの抑揚。旋律	⑦「言う」の尊敬語。おっしゃる。																																																																																					
		⑥長岡京市では中学校でも始まります。	⑧「○○と響く櫓の音」(『自然と人生』匝花)																																																																																					
		⑦ためらった時この足を踏みす。	⑨こまやかに美しい。うるわしい。																																																																																					
		⑧フリースタイルとグレコローマンがあります。女子はフリースタイルだけです。	⑩出が遅い陰暦20日以後の月。																																																																																					
		⑨29連勝しました。	⑪「梓」(音読み)。「音取った梓柄」																																																																																					
		⑩ホルガルの赤葡萄酒。	⑫鎌倉・南北朝時代に昇殿を許されない官人が集い、詠み興じました。																																																																																					
		⑪これを2度言うとか、どんだんお金などが入ってくる様を表します。	⑬流行語大賞2017																																																																																					

交流して下さい。

●私は自分の「脳トレ」としてクロスワード・パズルを作るのが趣味です。電子辞書を使われた方は、「逆引き」と言う機能があることをご存知でしょう。私はこの機能を大いに活用して作成しています。今回の市民大学用にクロスワードパズルを作るに当たり、テーマは「流行語」とし、マスは7 x 7にしました。次に答を「アイキャン」に決めました。ご存知のようにこの国際 NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン: International Campaign to Abolish Nuclear Weapons、ICAN」は昨年、ノーベル平和賞を受賞しただけでなく、日本の団体が深く関与し、日本人被爆者、サーロー節子さんが受賞演説をされました。

次に「キャン」に使う拗音の「ヤ」を組み込むために、「百人一首」と「社会資源」をクロスさせました。しかし「百人一首」にすると9マス必要になります。悩みながら、辞書を引いていきますと、「百人一首」とも云うとありました。みなさんもこれに悩まれたのではありませんか？「せをはやみ・・・」は朝ドラの「わろてんか」でしばらく話題になりましたネ。＜ ＞また、「社会資源」は可能ならば、私の好きな「地域資源」の方を使いたかったのですが、それにしたら「キャン」の拗音が出てきません。そして流行語をテーマにしましたので、「インスタ映え」や「付度」、それに「29連勝」は是非入れたいと考えて作りました。今回は黒マスの配置も工夫しました。味方によれば「トンボ」に見えませんか？そうです。「陸王」の「こはぜ屋」を意識しました。トンボは前進だけする勝利の虫、勝虫と言われるので。

みなさんも是非、一度ご自分でクロスワード・パズルを作ってみて下さい。

●ところで「地域資源」と「社会資源」はよく似た言葉です。分野によって使い方が異なるようですが、ここでは同じとし、「地域資源」の言葉を使うことにします。「資源」と言いますのは、一般的には、「自然界に在って発掘されたら役に立つモノ」

### 地域資源

地域社会に埋もれている(眠っている)資源のことです。  
例えば、行事、制度、施設、道具など、中でも人的資源(人材)が重要です。  
地域社会には多様な人的資源が埋もれています(眠っています)。  
発掘(目を覚ましてもらう)する。

と言った意味合いです。例えば、海洋資源、地下資源などです。海に出て漁をすれば海産物と言う資源が得られます。地下資源は発掘すれば、石油や石炭、今日ではレアメタルと言った資源が得られます。

●一方「地域資源」とは、地域社会に眠っている資源のことです。最近では福祉の分野でもよく使われているようです。地域資源は制度であったり、施設であったり、道具などです。そして何より人的資源が重要です。人材です。地域社会には膨大な人的資源つまり人材が眠っています。

●地域には趣味やスポーツに余暇を使う人もいます。職業人として培った素晴らしい技能を持っている人もいます。職業人として職場で働いている時は、職場に多くの時間とエネルギーを注いで活動しています。しかし、職場を離れると、それらの趣味や技能を活かす機会が少なくなります。「昔取った杵柄」という言葉があります。パズルにも使いましたが、つい最近まで取っていた杵柄、あるいは今も取っている杵柄もあるでしょう。私はその杵柄を多くのシニアの方に是非取ってもらいたいと思っています。因みに、最近の若い学生の中には「昔取った杵柄」という言葉を知らない学生が多いです。もっとも、最近はお餅を搗くこともあまりありませんもんネ。

●先にもお話ししましたように、私は自分の住んでいる地域を素晴らしい所、「まほろば」にしたいと思っています。そのためには地域資源を活用することです。活用するためには先ず発掘しなければなりません。今回、中央公民館が市民企画の講座を計画されました。昨年9月のことです。私はこれを知った時、この地域資源を活用しない手はないと考え、早速、「長岡京市民大学」を企画し応募しました。

●先に紹介しました私のもう一つのモットーは「ふれあいは煩わしいも笑いあり」です。つまり「わずらわしい」の中に「笑い」が含まれています。確かに人と触れ合えば、煩わしいこともあります、楽しいこともあります、多くのことを知り、多くのことを学ぶことが出来ます。人材を発掘するためには、多くの

人とコミュニケーションを持ち、その人の良さや特技を聴き、知ることです。私はその人の良さや特技を知ると、「その人を活かす機会が無いかな」とすぐ考えてしまいます。

●私は以前、滝ノ町自治会で「ふれあい文化サロン」を有志で立ち上げ、運営してきました。滝ノ町はおよそ 1000 所帯、3000 人が住まっています。その中には様々な方がおられます。おられました。居合道の達人、ボクシングのチャンピオン、バレエ教室の先生、盆石の宗匠、津軽三味線の先生、プロの歌手、そろばん 10 段、日本舞踊の先生、海外生活体験者、甲子園球児等々・・・私は直接お会いして、講師を依頼しました。それらの方に、大型の自己紹介と得意なことをお話しして頂きました。サロンは現在も続いていて、間もなく 200 回を迎えます。ふれあいは地域に人の繋がりを作り、地域を活性化します。

●2007 年度からは市内の 10 の全小学校で始められた「すくすく教室」で、私は長岡第十小学校区のコーディネータをしています。私は当初から、出来るだけ地元地域の方に指導員やサポーターになってもらおうと考えて、運営してきました。つまり人材は発掘したら活躍の場を作ることが大切です。生涯学習社会の重要なポイントも、学習成果を発表する場、活躍する場を作ることです。私はここに地域活性化の鍵があると考えています。

●ところで、今日の講座のキーワードの一つは、この「発掘」と関連した「耕す」です。＜ ＞みなさんは「耕す」という言葉を聞かれますと、どのようなことをイメージされますでしょうか。＜ ＞私はすぐ農業をイメージします。この長岡京市にも多くの農家の方がおられます。一般的には「耕す」とは大地に鍬や鋤を入れて、農地を世話することだと思います。

●1996 年、欧州共同体委員長のジャック・ドロールがまとめた「21 世紀の教育及び学習を提言する報告書」のテーマは「秘められた宝物」でした。このテーマはラ・フォンテーヌの寓話から取ったものです。こ



んな内容です。

間もなく死ぬ事を覚ったある農夫が、働かない3人の息子たちに次のように遺言しました。「裏の畑に宝物を隠してあるから、収穫を終えたら深く掘り起こしてみよ」と。父の死後、息子達は遺言通り、畑を隈なく深く掘り起こしましたが、宝物は見つかりませんでした。しかし、翌年の収穫は畑がよく耕されていたので今までにない豊作に恵まれました。

と言う寓話です。これは労働こそが宝であり、労働の尊さを教訓としていますが、ドロールは労働を学習に置き換え、生涯教育、生涯学習の大切さを表現しました。

●私はこの寓話に他に2つの教訓を感じています。一つの教訓は、農地だけでなく、地域を耕すことです。地域を耕しますと多くの資源が発掘されます。その地域の歴史や伝統を掘り起こせば、文化の華が咲き誇ります。何度も言いますが、地域には膨大な人材が眠っています。地域活性化の鍵は新たな人材の発掘だと

<h2 style="color: red;">耕す</h2> <p>「秘められた宝」 ジャック・ドロール 1996 労働 ⇒ 生涯教育、生涯学習</p> <p>「地域を耕す」 地域の歴史や伝統を発掘する。⇒ 文化的資源(人材)を発掘する。</p> <p>「人間を耕す」 culture (耕す、世話する) agriculture (農業) 楽修: 楽しみながら内面をスマートにする。</p>
--

思います。私はこの「長岡京市民大学」を人材発掘の場にしたいし、人材活躍の場にしたいと考えています。今日、ご出席のみなさんが人材です。

●もう一つの教訓は、農地だけではなく、人間を耕すということです。これはドロールの考えに近いと思います。英語で「農業」のことを agri-culture と言います。Agri とは「畑」や「大地」を意味しています。Culture の語源は「耕す」とか「世話をする」という意味です。つまり農業を表す agri-culture は「畑や大地を耕し、世話をする」という意味です。＜ ＞ところで、みなさんは Culture と聞くと、「文化」や「教養」を連想される方が多いと思います。確かにその通りです。しかし、言葉の意味は時代と共に、あるいは地域によって変化します。Culture も約 400 年ほど前のシェークスピアの頃から、「人間の

内面を耕す」という意味に転用されるようになり、今日に至っています。この中央公民館の隣には「記念文化会館」があります。そうしますと、そこは「人間の内面を耕すところ」と考えると、少し見方が変わるかもしれません。如何でしょうか？< >

●「筆耕」や「舌耕」という言葉があります。筆で耕す、舌で耕す、と書きます。これらは文を書いて読者の内面を耕すことであり、講演や講話によって聴衆の内面を耕すことです。あるいはそれを仕事とする事です。

●この「長岡京市民大学」を始めるに当たり、色々御指導いただきました京都西山短期大学の加藤善朗先生は国際日本文化研究センター研究支援員もされていますし、朝日カルチャーセンター講師などもされています。まさに、筆耕、舌耕の達人です。

●それでは「人間の内面を耕す」にはどうしたらいいのでしょうか？< >もうお分かりだと思いますが、それは教育、学習、あるいは経験をすることです。文化や教養はその結果です。畑を耕せば、農作物が実りますように、人間を耕せば、教養という作物が実り、人生が豊かになります。それは喜びや楽しみとして自分に帰ってきます。私はこのことを「楽修」と表現しました。「楽」はもちろん音楽の「楽」、楽しむことです。「修」には「修養」に使われているように、性質や品行の角を取り、すらりとしたスマートな人柄にする意味があります。読み方は「がくしゅう」と読みますが、意味は「楽しみながら内面をスマートにする」ということを表現した私の造語です。楽しみながら学び、学んだ結果を楽しむことが出来ます。内面のスマートさは「かしこさ」とも言えます。これは本市の新たな合言葉「かしこ暮らしっく」に通じると思います。

●実はスポーツもよく似ています。日本ではスポーツと言うと、体育会系、運動系として、野球やサッカーやバドミントンや最近では陸上競技などを思い浮かべますが、英語の sports は語源的には「気晴らし」や「楽しみ」「遊び」を意味しています。欧米ではチェスはスポーツです。それからしますと「将棋」

や「囲碁」や「麻雀」もスポーツです。次回の「ダーツ」もスポーツです。どうも「ルールに従って対戦を楽しむこと」をスポーツと呼んでいるようです。競技者はその種目のルールに従って、自らを耕し、技量を高めるのです。身体に汗することもあれば、額に汗することもあります。そこに楽しみがあります。勝つ喜びも楽しみ、負けた悔しさも楽しみになるのです。みなさんはどんなスポーツを楽しんでおられますか。＜ ＞私は孫と将棋をしますし、テニスや卓球をしています。来月はダーツを楽しみにしています。

●さて、今日のもう一つのキーワードは「繋ぐ」です。「繋ぐ」の語源はロープの綱のようです。今日ご参加の中川さんはボーイスカウトに長年携わっておられますので、ローピングの達人です。実は私も 60 年前はボーイスカウトでした。現在の天皇陛下が皇太子の時、ジャンボリーでお会いしました。また人と人とを繋ぐ綱のことを「絆」とも言います。つまり「繋ぐ」とは離れていたもの、あるいは離れそうなものを離れないようにしておくことです。「繋ぐ」は「ふれあい」よりは強く、「結ぶ」よりは緩やかな感じがします。私は「繋ぐ」にそんなイメージを持っています。みなさんは如何ですか。スライドの 3 番は「本結び」と言います。5 番は「小綱つなぎ」と言います。＜ ＞今日、最初に取り組んでもらいましたクロスワードパズルも言葉と言葉を音で繋いでいると言



**繋ぐ**

- 1) 人材と人材を繋ぐ (絆)
- 2) 学びと学びを繋ぐ (学習)
- 3) 講座と講座を繋ぐ (教養)
- 4) 世代と世代を繋ぐ (生涯教育)

えます。

●私はこの「長岡京市民大学」の「ねらい」として、4つの「繋ぐ」を挙げました。チラシの裏をご覧ください。

●先ず最初は、この「長岡京市民大学」を通して、人と人とを繋ぐことです。それは取りも直さず人材と人材を繋ぐことです。講座では参加者の交流・コミュニケーションを重視し、促進したいと考えています。最初にクロスワードパ



ズルをグループで解いていただいたのは、そのようなねらいからです。人は共同作業することによって、交流やコミュニケーションが出来、繋がる事が出来ます。よく使われるコミュニケーションの語源は common です。Common は「共通」「共有」という意味です。つまりコミュニケーションは人々が場を共有し、言葉を共有し、理解を共有することです。多くのことを共有すれば繋がり強くなります。

●第二は「学びと学びを繋ぐこと」です。講座では講師の一方的なお話しに終わることなく、作業や活動や質疑応答を重視し、促進したいと考えています。最近、教育界ではアクティブラーニングが花盛りです。それは授業に参加した学習者が積極的になるような授業運営をすることです。すると学習者は自分の内面をゆっくり自分で耕し、自分のこれまでの知識や教養を振り返り、更に深め、高めることが出来ます。第2回は「ダーツ」ですし、第3回は「聞香」です。初めて体験される方も多いのではないかと思います。新たな体験は新たに鍬を入れ内面を耕すことになります。耕しながら、様々な種を植えて下さい。それらはまさにカルチャーになります。

●第三は「活動と活動を繋ぐこと」です。あるいは「講座と講座とを繋ぐ」ことです。つまり講座に参加した証を「見える化」することです。参加ポイントを集めることによって、学位などを認定し、参加のし甲斐・やり甲斐を持ってもらいたいと考えています。日本には多くの「市民大学」があります。それらも規定の回数を参加すれば修了証などが授与されます。通常の大学で言えば、単位を取ることです。決められた単位を取れば、学士号が与えられます。更に上に進めば、修士号や博士号が与えられます。この「長岡京市民大学」が本格化すれば、「市民学士」、「市民修士」、「市民博士」の称号を考えています。

●第四は「世代と世代を繋ぐこと」です。「社会教育」、「生涯学習」を私は更に発展させて「新生涯教育」にしたいとかねがね提案してきました。シニア世代の参加者は学ぶだけでなく、学んだことを積極的に発表し、活かしていただき

たいと考えています。その一つの活かし方が、生き様としての「楽修」成果や、「昔取った杵柄」などを次世代に伝えることです。繋がってこそ伝えることが出来ます。「伝える」とは教育です。それによって、伝統や文化、技能の継承が出来ますし、次の世代が成長します。成長に関わる営みは教育です。つまり、生涯学習の成果を教育に活かしていただきたいのです。

●長岡京市には「すくすく教室」があります。「すくすく教室」は地域の大人が小学生と一緒に活動し、伝統や文化、スポーツなどを小学生に伝える活動です。小学生はそれらを経験して学習し、成長します。成長に関わることは教育です。国は「放課後子ども総合プラン」を掲げて、地域総かかりで子ども達の教育にあたることを推進しています。先日(12/21)も京都府の研修会に参加しましたが、文科省からの講演の後、グループ交流で長岡京市の「すくすく教室」のことを紹介しますと、他のどの市町村の方も驚いておられます。この「すくすく教室」は長岡京市が全国に誇れる地域資源です。

●先程「新生涯教育」と表現しましたが、1965年にポールラングランがパリのユネスコ本部におきまして「生涯教育」を提唱して50年余りになります。彼が日本に来日した時、講演を直に聞く機会がありました。それは生き方が大きく変わろうとしている時に教育も大きく変わらなければならないことを示しているように感じました。発表された生涯教育のフランス語は *l'éducation permanente* で、直訳は「恒久的な教育あるいは連続的な教育」を意味しています。つまり、学校教育が終わってからも、ずっと教育、学習活動を続けて、生き続けていきたいと思いますという意味合いです。

厚生労働省・文部科学省 平成26年8月11日

### 「放課後子ども総合プラン」の全体像

**趣旨・目的**  
 ◎ 共通学習機種の「中1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一地域を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な整備等を進める

**国全体の目標**  
 ◎ 平成31年度末までに  
 ● 放課後児童クラブについて、約30万人分を新たに整備  
 (約99万人→約120万人)  
 ◎ 小学校校定(校定方式別)で一体的に整備して整備し、うち1万4千所以上を一体的で実施  
 (約96の所→1万4千所以上)を組織する  
 ◎ 学校の特別室などの活用が促進されることにより、多様な体験・活動を行うことができるよう、一地域を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な整備等を進める

**学校施設を積極活用した実施促進**  
 ◎ 学校施設の活用に向けた「3つの標準化」  
 ・実施主体である市町村教育委員会又は施設部局等に管理運営の責任の所在を明確化  
 ・施設が置かれた地域の状況等の関係等について認定を踏まえた上での実施  
 ◎ 余剰室等の確保・活用等に合わせた検討  
 ・既に活用されている余剰室等の活用、運営委員会等において活用可否を十分協議  
 ◎ 放課後等における学校施設の一体的な利用の促進  
 ・学校の特別室などを学校教育の目的には使用していない放課後等の時間帯に活用するなど、一時的な利用を積極的に促進

**一地域の子供を育てるための具体的な取組**  
 ◎ 一体的放課後児童クラブ及び放課後子供教室の考え方  
 ・全ての児童の安全・安心な環境整備を確保するため、同一の小中学校内で両事業を実施し、共働き家庭等の児童を含めた全ての児童が放課後児童クラブのプログラムに参加できるもの  
 ・全ての児童が一緒に学習や体験活動を行うことができる共通のプログラムの充実  
 ・活動プログラムの企画段階から保護者の参画を、教職員が推進して取り組むことが重要  
 ・常に試みながら、施設に必要を必要とする児童の確保を促進する環境を整え、放課後児童クラブについては、生活の場としての機能も十分に発揮することが重要であるため、市町村が実施する必要があることを要する

**放課後児童クラブ及び放課後子供教室の連携による実施**  
 ◎ 放課後児童クラブ及び放課後子供教室が小学校外で実施する場合は両事業を連携  
 ・放課後児童クラブと放課後子供教室が連携して実施する場合は、共通の活動時間など、社会的資源の活用も検討  
 ・放課後児童クラブと放課後子供教室が連携して実施する場合は、引き続き当該施設での実施は可能

**市町村及び都道府県の体制等**  
 ◎ 市町村には「運営委員会」、都道府県には「推進委員会」を設置し、教育委員会と施設部局の連携を強化  
 ◎ 「総合教育会議」を活用し、市長と教育委員会が、学校施設の積極的な活用など、総合的な放課後対策の在り方について十分協議

日本ではその後「生涯」の言葉は「教育」よりも「学習」の方が結び付くと考えられ、「生涯学習」と表現されるようになりました。そして 2001 年の中央省庁再編に際して「文部科学省」が出来、その筆頭部局として「生涯学習政策局」が出来、「生涯学習」の名称が定着し、今日に至っています。

2015 年に国連は「持続可能な開発目標 SDGs」として 17 の目標を掲げ、2030 年までにそれらの目標を達成しようと全世界に呼びかけています。その第 4 の目標は「すべての人に包括的かつ質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。 promote life-long learning opportunities」とありますが、私はくピコ太郎のように > もう一度「生涯」と「教育」を繋ぎたいと思っています。実はピコ太郎は SDGs の日本の国連大使なんです。(できれば youtube 動画を紹介する) これ以上は話が大きくなりますので、別の機会に譲りたいと思います。

●2:50 さて、この長岡京市で「生涯」と「教育」を結びつける具体的な案として、この「長岡京市民大学」などの地域活動を、長岡京市が誇れる「すくすく教室」と繋ぐことです。そうすれば、生涯と教育とが再度繋がり、更に福祉と教育を一体とした施策が出来ると思います。

●「誰もが誰もの成長に関わる」と言うのが私の云う「新生涯教育」のモットーです。人は生きている限り、人と繋がって生きていきます。繋がり少ない人には、民生児童委員や地域のボランティアの方々が繋がり機会を作ることが出来ます。繋がれば変わります。

**新生涯教育**

<誰もが誰もの成長に関わる>

「放課後子ども教室」は地域の大人が子どもに関わる絶好の機会!


「放課後子ども総合プラン」を政府は作成

「放課後子ども教室」を推進

「京の学び教室」を京都府は展開

「すくすく教室」を長岡京市は各小学校に設立

「すくすくキッズテン」長岡第十小学校の活動



それは成長です。成長は何も若者だけの特権ではありません。最近、若者は関わりや繋がることを「絡む」と表現します。私などは「絡む」と聞くと、少し悪いイメージがあります。みなさんは如何ですか? < >人は生涯にわたって人と関わり、人と繋がって生きていきます。私の専門は「道徳教育」ですが、文科省は道徳を次のように言っています。「人と人との関わりの中で、一人一人

がよりよく生きようとする生き方そのものが、もともと、道徳と呼ばれてきた。」つまり道徳は生き方のことです。人は生涯にわたって成長しますし、生涯にわたって「教育している」のです。だから「生涯教育」が可能なのです。つまり、人は生涯にわたって学習できる存在であると同時に、教育できる存在なのです。社会はもっとこのような「教育」の重要性を見直し、「教育のための社会」を目指すべきだと思います。長岡京市には特に子ども達と関わる場として、「すくすく教室」があります。多くの市民がこの「すくすく教室」をもっと理解し、参加することによって、「地域総がかりの子育て」が現実のものとなります。

●最近、「第5社会」が論議されています。私は「第5社会」は「教育社会」と考えています。

●「生涯にわたって」とは「死ぬまで」ということです。自分の生きた証を次の世代に伝えることは、教育的行為であり、自分の生命の永遠性に繋がると思っています。自分の子や孫と言った血縁による繋がりも自分の生命の永遠性に繋がる喜びだと思いますが、自分が関わった多くの子ども達が成長してくれることは、それ以上の喜びではないでしょうか。

●これで私のお話を終わらせていただきます。有難うございました。

●さて、この後、ご質問やご意見をお聞かせ頂きまして、一旦終わりましたから、参加者全員で、記念撮影をしたいと思います。今後、この「長岡京市民大学」が50回、100回続くとしますので、今日は記念すべき第1回になります。皆様とともに是非長く続けて参りたいと思います。第2講座、第3講座も是非、御参加下さい。今日の講座よりはずっと楽しいし、活動的だと思います。

●なお、質疑、意見交換の後、一旦終わりましたから、この「長岡京市民大学」の運営について、話し合いたいと思います。お時間とご興味のある方は、是非、お残りいただきたく思います。

●【質疑、意見交換】それでは、ご質問やご意見がお有りの方は挙手願います。お名前もお聞かせ下さい、またこの間にアンケートをお書き頂ければ幸いです。

●【準備委員会】まだ、ご質問やご意見のお有りの方は、この後の「準備委員会」でも意見交換したいと思いますので、その時にお願いいたします。これで「第一講座」を終了いたします。ありがとうございました。来月もお会い出来ますことを楽しみに、お待ちしております。